

無題 その16

君は我に預けられたもの
君は我がイノチなり

世の人々に何を伝えても伝わりきらぬ

人々はイノチを弄んでいる
イノチの意味を知らずうつつを抜かしている
イノチのハタラキを知らず滞っている

もったいないと思わず見捨てるものは捨てるべし
全てを連れては行けず
全てのものに用意された場もなく
君のその瞳に見出されたものに
光を当てよ

全てのものに光を当てても届かぬ
故に情けは無用

優しさゆえに滅びるものがある

優しさが何の役にも立たぬことがある

厳しきものの中にこそ真の優しさがある

カイガイシクハタラクものに救いがある

一心不乱にハタラクものに救いがある

それを浄土という

リンゴの皮を剥くように

一皮ずつきれいになるであろう

君は選ばれしもの

誰もそのことを知らず

誰にも伝えておらず

だからこそ輝けり

人々の眼には何も見えておらず

眼くらましばかりをみせつけられている

眼は開いていてもみえてはおらず

故に情けをかけぬこと

連れてゆくものにしか目をかけぬこと

2007年8月29日